

# 広がる可能性

## 総合の学習

### 白根小学校の取り組み

小学校の学習指導要領が十年ぶりに改訂され、二〇〇二年度（平成十四年四月一日）から改訂内容が本格実施となります。その中でも、教科の年間授業時間を三割も削減する一方で、小学校三年生から「総合的な学習の時間」を新設することが加えられています。

市内では白根小学校がこの学習に取り組み始め、新しい学習体制を模索しています。

◇教科書はナシ。テーマは自由  
「総合的な学習の時間（総合学習）」は、平成十四年度から実施される完全学校週五日制のもとで、各学校が特色ある教育を展開していくこととなります。学習内容は各学校で独自に決めることとされ、学校の創意工夫が求められます。今までのように教科書はありません。自然体験やボランティア活動、地域の人を講師に招いて行われる学習、施設訪問を通じてグループ学習などが積極的に取り入れられていきます。その中で総合学習は、子供たちに豊かな人間性や社会性を身に付けてもらい、物事に対して自ら学び、考える力を培うことを基本的なねらいとしています。

完全実施に先駆け、昨年からの総合学習への取り組みを進めてきました。当時の五年生たちが一年間取り組み、「世界」「食」「健康」をテーマに、自分で課題を見つけて調べ、考え、それを表現する学習方法を行ってきました。

今年度は三年生から六年生までの全十五クラスが「生きること」「環境」「白根のまち」といったテーマを設定し、総合学習に取り組んでいます。

方などを学ぶ中では理科が、白根市の農業を調べるということでも社会科が、米を炊いてみることで家庭科が、そして作文や学習の発表に国語などが関連してくるなど、総合的な教科の学習として広がりを持つてきます。総合学習の時間では、学習していく段階で各科目が取り入れられています。

◇教科科目はどこへ  
総合学習を進めていく中で、「今までの教科を学ぶ時間はどのようになるのか」といった疑問も生まれるかもしれません。例えば「白根のこメ」をテーマに設定した場合、コマの発芽と成長や天気との関わり

現され、紙芝居、ミュージカル、討論会など表現方法は多彩。初めのころは緊張していたという研究発表も、今では発表することを楽しんでる子供も多く、自信を持って自分の考えなどをクラスや人前で述べています。テーマを調べていく過程で得られるさまざまな疑問や考えを学習へと発展させている子供たち。テーマとの関わりを自分と身近なものとして捕らえていき、生き生きと学ぶ意欲が生まれています。

◇知りたいこと、話したいことがいっぱい  
白根小学校の子供たちは図書館や書店で本を調べたり、家の人や地域の人に話を聞いたりするだけでなく、電話やインターネットなどを通じてさまざまな情報収集を行っています。活動はともかく精神的で、物事に対する疑問や探究心が総合的な学習とうまく一体化して

います。また、教室の中だけでなく校外へも飛び出し、施設見学から自然の観察など、まちな自然も学習の場となり、人々との交流も学習の教材となります。

集めた情報（Ⅱ学習材料）は、自分なりのレポートとしてまとめたり、グループなどで大洋紙にまとめたりし、発表の場へと段階を進めていく学習方法が採られています。まとめ作業には写真やイラストを使ったり、コンピュータを使って集計表・グラフを作成したりするなど、人に分かりやすく伝えようという工夫がみられます。

学習の成果は発表という形で表

◇変わり始めた子供たち  
今の子供たちは指示待ちの子供

が多く、自分から進んで物事をしようという子供が少なくなっているといわれています。

白根小学校では、昨年から始めた総合学習の時間を持つたことで子供たちは変わったようです。「普段の教科の学習では見られないような活発な面が育ち、生き生きとしています。調べ方、物の見方に鋭さが出て、びつくりするくらいです」と歌代校長先生。「何とんでも発表・発言力が一番変わりました。先生の質問に対して答えるだけの子供から、言葉や資料などで人に知らせたいという欲求が引き出されていきます」と話しています。

自分の意見や考えを堂々と発表



日本の伝統文化を学ぶ（水墨画）

分かったことを伝えよう。グループ学習の研究発表

韓国からの留学生と意見交換

#### 「総合学習に期待すること」

白根小学校 歌代 雄 校長先生



総合学習の時間は平成12年・13年の移行措置があり、平成14年から完全実施されます。子供に視点を合わせた時に、教科学習の内容は習得、技能を身に付けるように教え込む学習体制から子供が自ら学ぶ方向に変わってきています。総合で学ぶ物事の見方や考え方が教科の学習に生き、教科で学んだことも総合の学習に生かすことができているのでは。子供を変える媒体の1つが総合の学習となるのではないのでしょうか。

子供たちには「白根に生きる子供」、つまり、地域に学び地域に働きかけるような子供になってほしい。そして総合の学習を体験することで表現力を身に付け、人前で物おじしないで話せる子供になってほしいですね。

5年生のときに「世界」をテーマに劇や歌を披露したのが印象に残っています。

6年生になっても、外国の人と話をしたり、その国の遊びを教えてもらったりと、総合の時間はとても面白いです。初めのころはあまり外国の人と話ができませんでしたでしたが、今ではできるようになりました。



6年1組 細海 友理さん

5年生のときは食品の安全性の実験やスーパーでアンケートをとるなどして、いろいろなことが分かりました。エネルギー問題をテーマにした今年も、電気の大切さを実感し、家でも節電しています。

総合の時間は発表の回数が多いのですが、すぐに慣れたし、みんなに考えを分かってもらえることがうれしいです。



6年2組 星 千尋さん

今年度は白根市の福祉のことをテーマにしました。ときわ園やしなの園などお年寄りとの交流をしたことで、子供からお年寄りまでの福祉について、いろんな面に目がいくようになりました。

人と話をしたり、訪問調べや電話など大変だけど、あとで何かの役に立つと思います。研究発表は楽しいです。



6年3組 薄田 瑞恵さん



自分の意見や考えを堂々と発表



教室や廊下には学習をまとめた資料がズラリ



赤ちゃんや妊娠中のお母さんと触れ合った交流会で。テーマは「生きる」